

アジア研究教育ユニット（特別経費）令和元年度教育研究報告書

事業課題名	学生・院生および引率教員の海外派遣／タイ・タマサート大学、カセサート大学
代表者名	久野秀二（経済学研究科）
事業概要 (600 字程度)	<p>経済学研究科がタマサート大学と、カセサート大学とそれぞれ締結した交流協定に基づき、タイへの短期学生派遣プログラムを行った。</p> <p>バンコク市内にあるタマサート大学とその近郊にあるカセサート大学では、それぞれの大学の講師のみならず、タイ王国農業・協同組合省（Ministry of Agriculture and Cooperatives）からも講師を招いて講義を行ったほか、大学院生合同ワークショップを開催した。また、フィールド調査に関しましては、国際連合アジア太平洋経済社会委員会（UNESCAP）、タイ銀行（Bank of Thailand、タイ王国の中央銀行）等の機関訪問以外、Samut Prakan province の Bang Krachao sustainable community での農村・農業調査を実施した。</p> <p>両大学との中長期的な協力関係の構築を兼ねて参加した教員名の引率のもと、経済学研究科に所属する大学院生 13 名（うち、東アジアコース 11 名、一般コース 2 名）、経済学部 of 学生 1 名の計 14 名が参加した。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>本プログラムは経済学研究科の国際プログラム「東アジア持続的経済発展研究コース（東アジアコース）」の配当科目である「Overseas Field Research」および「Field Research in East Asia」を兼ねて 2019 年 11 月 20 日から 26 日までの 7 日間にわたり実施され、経済学研究科の大学院生 13 名および学部生 1 名が参加した。東アジアコースの科目と兼ねる形でタイ・タマサート大学への派遣プログラムが実施されるのは 3 回目とのことであり、教員と学生の両面での友好関係がさらに深められた。また、2019 年に交流協定を締結カセサート大学へは初めてでありながらも全面的な協力を得た。</p> <p>具体的に、①タイをはじめとする ASEAN 諸国の政治・経済に関する、政府関係者を含む講師陣による講義と、国際機関・現地企業など各講義に関連した見学・調査とを組み合わせた短期研修、②Samut Prakan province 農村地域へのフィールド・トリップ、③タマサート大学、カセサート大学との 3 大学合同の大学院生ワークショップ、を主な内容として実施した。</p> <p>①の講義とそれに関連した研修として、「持続可能な開発目標（SDGs）とその東南アジアでの実現」に関する講義と国際連合アジア太平洋経済社会委員会（UNESCAP）への訪問をはじめ、タイ銀行でのキャッシュレス社会と中央銀行の役割に関する講義と貨幣ミュージアムの見学等が挙げられる。また、講義や研修中に行う活発な議論とネットワークングを通じて、新たな知見が提供されるのみならず、学生の今後のキャリアアップに資することを期待できる。②Samut Prakan province 農村地域へのフィールド・トリップ「タイの農業開発の問題」をカセサート大学で受ける「十分性経済哲学に起因するタイの開発アプローチ」に関する講義と組み合わせることで、参加学生と教員に「東アジア持続的経済発展研究コース（東アジアコース）」の主題である「持続的経済発展」への理解を深める機会を与えた。③3 大学合同のワークショップを 4 つのパネルセッションに分けて開催することによって、近い分野の学生同士のアイデア共有を達成したほか、違う分野の学生との交流も促すことができた。</p>